

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 次世代自動車推進費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 商工・エネルギー政策課 エネルギー係 電話番号：058-272-1111(内3622)

E-mail：c11351@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,003 千円 (前年度予算額： 1,040 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,040	0	0	0	0	0	0	0	1,040
要求額	2,003	0	0	0	0	0	0	0	2,003
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

岐阜県エネルギービジョンにおいて「電動車の普及拡大」を掲げ、電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)、燃料電池自動車(FCV)の台数目標を設定している。

県では電動車の普及に向け、平成21年度にEV2台を公用車として導入している。また、平成27年度からは、水素ステーション整備支援制度を設け、FCVを公用車として導入し、市町村等が主催するイベントにおいて展示・試乗会を行うなど普及啓発に活用してきた。さらに、防災イベント等において災害発生時の非常用電源としての活用例もPRしている。

令和3年度には、FCV3台を県庁、東濃県事務所、飛騨県事務所に配置し、県内事業者への貸出しによる機能や性能の体感機会を設け、更なる普及拡大に努めているところであり、台数目標の達成に向け、引き続き普及啓発に取り組む必要がある。

(2) 事業内容

次世代自動車普及のため、県が導入したEV(アイミーヴ2台)・FCV(MIRAI4台)の維持管理を行い、公用車としての利用や、市町村及び事業者等への貸し出しによりPRを行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

岐阜県エネルギービジョンの重点プロジェクトである「脱炭素社会促進プロジェクト」を推進するため、県内各地において次世代自動車の普及を推進する必要があることから、県負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	20	旅費
需用費	1,734	公用車燃料費、修繕費、車検費用
役員費	219	タイヤ交換実施費、通信運搬費、自賠責保険料
公課費	30	重量税
合計	2,003	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県エネルギービジョン

(2) 国・他県の状況

国の「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」（令和3年6月18日策定）において、2035年までに乗用車の新車販売で電動車100%を目標としている。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
岐阜県エネルギービジョンにて示すEV・PHVおよびFCVの導入目標を達成する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H27)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①EV・PHVの導入 台数（累計）	668台	10,626台	25,253台	31,224台	37,195台	29%
②FCVの導入台数 （累計）	7台	99台	206台	251台	295台	34%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。 ○環境学習のためにMIRAIを小中学校に貸出 6回 ○次世代自動車の公用車利用による県民へのPR のべ461回
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。 ○環境学習のためにMIRAIを小中学校に貸出 8回 ○次世代自動車の公用車利用による県民へのPR のべ504回
令和 4 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容と成果を記載してください。 ○MIRAIの市町村や小学校でのイベントへの貸出 6回 ○MIRAIの県内事業者への貸出 13回 ○次世代自動車の公用車利用による県民へのPR のべ327回
指標① 目標：19,282台 実績：10,626台 達成率：55%	

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	2050年「脱炭素社会ぎふ」を達成するためには、次世代自動車の更なる導入促進が必要なため。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	コロナ禍でイベント等が自粛されており、市町村や小学校でのイベント利用は減少傾向にあったが、県内事業者からの利用ニーズは増加している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 1	次世代自動車の貸し出しや公用車としての利用により、県民への適切なPRを図る。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 EVについては、県の更新基準を過ぎており、車両の老朽化が懸念される。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか FCVを主として積極的にイベントでの活用や公用車利用により活用しPRを進めていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】